

函館市医療・介護連携推進協議会 令和4年度第2回会議 会議録

■ 日 時

令和5年3月30日（木）19:00～20:30

■ 場 所

函館市医師会病院 5階講堂（函館市富岡町2丁目10番10号）およびウェブ

■ 議 事

○協議事項

- （1）令和5年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）について
- （2）はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について

■ 配布資料

- 1 令和5年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）
 - 1-2 令和5年度 多職種連携研修計画（案）
 - 2 はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について
- 参考資料1 はこだて医療・介護連携サマリー

■ 出席顧問・委員（16名）

（対面参加）

熊川顧問，氏家顧問，久保田委員，水越委員，岡田委員，亀谷委員，保坂委員，常野委員，齋藤委員，佐藤委員

（ウェブ参加）

澤木顧問，鈴木委員，北村委員，阿部委員，寺田委員，渡部委員

■ オブザーバー

（対面参加）

函館市医師会事務局，北斗市，七飯町，ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター
（ウェブ参加）

函館歯科医師会事務局，函館薬剤師会事務局，渡島総合振興局

■ 事務局

（函館市）

氣田保健福祉部次長

市立函館保健所）山田所長，扇谷次長

地域包括ケア推進課）小棚木課長，相澤主査，根崎

（函館市医療・介護連携支援センター）

佐藤係長，近藤氏，花輪氏

（函館市医師会病院）

高橋事務部長，加藤医療・介護連携課長

■ 会議の内容

小棚木地域包括ケア推進課長

ただ今から函館市医療・介護連携推進協議会の令和4年度第2回会議を開催いたします。本日の会議は、対面とウェブを並行する形で開催させていただいております。ウェブでご参加の皆様、ネットワークの不具合等はありませんでしょうか。

ウェブ参加の皆様は、カメラをONのままにいただき、ミュートは発言時に解除してください。発言時には、画面上でわかりづらいことがあるため、氏名を名乗ってください。なお、前回の会議でも確認いたしておりますが、この会議は原則公開により行いますので、ご了承願います。

また、本日は、協議事項の(2)「はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について」に関しまして、産業医科大学の松田 晋哉教授、社会医療法人高橋病院の高橋 肇先生、同じく社会医療法人高橋病院の滝沢 礼子様に出席いただいております。松田様のご紹介などにつきましては、この後の議事の中で、あらためてお話しさせていただきたいと思っております。

次に、前回の令和4年度第1回の会議録についてですが、事前に各委員の皆様にご確認をさせていただき、市のホームページ上で公開させていただいております。

次に、本日の資料を確認させていただきます。事前に、会議次第、資料1、資料1-2、資料2、また、参考資料として「はこだて医療・介護連携サマリー」を送付しておりますが、本日お持ちでない方はいらっしゃいますか。もし、お持ちでない方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。また、机上には、名簿と座席表、本日、松田教授からご説明いただく、「はこだて医療・介護連携サマリーを用いた慢性期の医療情報共通基盤の作成提案」の資料、E-field Homeの研修会についての資料をお配りしております。

次に、医療・介護連携支援センターの職員に交代がありましたのでご紹介いたします。花輪様、よろしくお祈いします。

函館市医療・介護連携支援センター 花輪

函館市医療・介護連携支援センターに配属となりました、花輪と申します。よろしくお祈いいたします。

小棚木地域包括ケア推進課長

本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。

それでは会議を進めさせていただきます。進行は、佐藤部長にお願いをいたします。

佐藤座長

皆様こんばんは。本日は、大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。次第に従い、議事を進めてまいります。

はじめに協議事項(1)「令和5年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容(案)について」、センターから説明をお願いします。

函館市医療・介護連携支援センター 佐藤係長

- ※資料1 令和5年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容(案)
- 資料1-2 令和5年度 多職種連携研修計画(案)

以上の資料に基づいて説明

佐藤座長

ありがとうございます。センターから説明がございましたが、ご質問やご意見等はありませんか。（なし）

確認事項等は特にないようですので、皆様からのご了解を得られたということで、協議事項（１）「令和５年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）について」の議事は以上といたします。

続きまして、協議事項（２）の「はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について」事務局から説明をお願いします。

小棚木地域包括ケア推進課長

※資料２ はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について

参考資料１ はこだて医療・介護連携サマリー

以上の資料に基づいて説明

佐藤座長

事務局から説明をいただきました。ありがとうございます。

また、本件に関しまして、本日、産業医科大学の松田晋哉教授が、はるばる九州からお越しくございました。遠方からご足労いただき、誠にありがとうございます。

松田教授からは、はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について、お話を伺いたいと思います。松田先生、よろしく願いいたします。

産業医科大学 松田教授

※説明要旨

- ・ 現在国では、医療と介護の情報の共通基盤を作る動きがある。１０年ほど前から同じような仕組み作りを何度も進めてきたが、現在残っている仕組みはほとんどなく、残っているとすれば各地域がそれぞれの地域の問題意識に基づいて作ったシステムだけである。
- ・ 今回、医療と介護の情報の共通基盤を作るにあたり、既に地域の中でうまく動いているものをベースにして考えなければ、また失敗するであろう。
- ・ 色々な地域の状況を見させていただいているが、医療と介護の連携のための理想的な情報が盛り込まれたサマリーが作られていて、それがＩＣＴと連動して動いている地域は、函館しかない。
- ・ 本日、了承をいただけたら、函館のサマリーをベースに、「重症度、医療看護必要度」や主治医意見書の項目にある「今後起こる可能性のある病態」といった必要な情報を加えて、全国に広めていくために動きたいと考えている。 など

佐藤座長

松田先生、ありがとうございます。ただ今、先生から詳細な分析も含めたご説明を頂戴しましたが、協議事項２の「はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について」につきまして、委員の皆様方からご質問・ご意見等があれば、よろしく願いいたします。岡田委員、お願いいたします。

岡田委員

北美原クリニックの岡田です。多大なお褒めの言葉をいただいて、サマリーを作った者としては本当に嬉しいです。このサマリーやID-Link, Medika等、一つの地域で同じものを使っているところはなかなかないですね。スタンダードに同じものを使うということが、函館の人は当たり前だと思っているけれども、当たり前ではないと思います。

それは、医療・介護連携支援センターの人達や、ここにいる委員の人達の努力のおかげだと思っていて、こういったサマリーを作っても使われないという地域が圧倒的に多くて、自分たちが使っている様式があるからなんの問題もないという人達も多くいる中で、函館ではほとんどの病院がすぐに使ってくれたということはすごいことだと思います。ぜひ使ってください。

佐藤座長

岡田委員，ありがとうございます。松田先生から何かコメントはございますか。

産業医科大学 松田教授

ありがとうございます。色々な地域のものを見てきましたが、本当に素晴らしいと思います。介護分野は入っていませんが、実はフランスでも全く同じ方式のシステムが動いています。これはやはり、国が標準とすべきモデルケースなのだと思います。

佐藤座長

松田先生，ありがとうございます。ほかにご感想やご意見等はございませんか。氏家顧問，お願いします。

氏家顧問

氏家でございます。松田先生，どうもありがとうございます。私は5年前に函館に来たのですが、岡田委員が先ほどおっしゃったように、他の地域と医療と介護の連携のシステムが違いました。最初は紙ベースのやり取りだったとは思いますが、数年前からID-Linkに統合されて動いてきたところですね。そして、医療・介護連携支援センターの方達の地道な努力というものが本当にすごいと思います。先ほどACPの研修の話もありましたが、そういった研修もなかなかできないと思うのですが、本当に地道にやっていて、函館の基盤というものができているのかなと思います。

私もホームページでサマリーの基本ツールや応用ツールを見ていて、いくつか手直しをする部分は必要かとは思いますが、松田先生のお話を聞いて、DPCのビッグデータをそこに入れ込むことによって、このサマリーを色々なところで広く使っていけるということを確認でき、本当に素晴らしいことだと感じました。ありがとうございます。

産業医科大学 松田教授

ありがとうございます。もう一つ函館方式の素晴らしいところがあるのですが、行政の方も薬剤師の方も介護の方も入られていて、本当に多職種で取り組んでいるところです。病院と診療所のモデルはいくつかあるのですが、本当にすごいと思います。今後も発展させていただけたらと思いますし、色々な形でこの方式をご紹介させていただけたらと思います。

また、技術的な基盤がしっかりしていることも、いいことだなと思います。ICTを

使ったDXを進めるということは既に国で決まっていることですが、実際にいくらかかるかということとはわかりませんよね。でも、函館ではここまで開発してきているので、これにどのくらいかかるかという現実的なお金の計算もできると思います。そういう意味でも、色々なところを巻き込んでいって、この仕組みを広げられたらなと思っています。以上です。

佐藤座長

ありがとうございました。他には何かございますでしょうか。

保坂委員、いかがでしょうか。サマリーの取り組みについてですとか、よろしければ一言お願いします。

保坂委員

ここにいるメンバーで作って、苦勞もたくさんありましたが、振り返ってみると楽しかったです。ぜひ使ってみてください。

ただ、個人的にはまだまだ手直ししたい応用ツールもあるので、直しながら函館でも取り組んでいきたいと思っています。今回の件についてはお任せしますので、よろしくお願いします。

佐藤座長

ありがとうございました。それでは、せっかくの機会ですので、情報共有ツール作業部会の部会長として、これまでもこの仕組みの構築を進めてこられた亀谷委員からも、一言頂戴できればと思います。よろしくお願いします。

亀谷委員

函館中央病院の亀谷です。松田先生、どうもありがとうございました。このサマリーは、私と保坂委員と松野さんがコアになって、市内の認定看護師さんや歯科医師会の方々、栄養士会の方々などのもとに足を運んで、直接話を聞きながら作ったものですが、最初の部会で岡田委員がおっしゃっていた「思いやりのある連携」というシンプルなテーマが一番の土台にありました。

松田先生にも先ほどおっしゃっていただきましたが、どの職種でも分かるようなツールを作ろうというのが始まりでした。病院の看護師さんやドクターが見ても分かって、在宅を支えているヘルパーさんが見ても分かるという、幅の広いツールを作ろうと思ったのがきっかけで、そこから急性期の病院に使ってもらうようお願いして、施設の方やケアマネの方や訪看さんにも使っていただいて、さらにICTでMedikaを使ってこのサマリーを展開していくという状況になっています。

函館市の会議で話す内容ではないのですが、医療機関は医療圏で物事を考えていますので、函館市だけではなくて、今いらっしゃっている北斗市さんや七飯町さんなど、そういうところももちろん入ってくる必要がありますし、先ほど松田先生がおっしゃっていたように、急性期医療機関は、医療と介護をつなぐということもですが、在宅の状況を分かったうえでの退院促進にも力を入れなければ、今後10年、20年の後方連携の質は下がっていくと思いますので、救急で患者さんが運ばれてきた時に、果たしてこの人はどんな生活をしていたのかとイメージできるようなツールを今後も作成していきたいと考えておりました。

ぜひ松田先生のお力で全国的なスキームを作っていただいて、私達にも色々情報提供

いただければと思っております。今後ともよろしく申し上げます。

産業医科大学 松田教授

ありがとうございます。これも最初にお約束させていただきましたが、私一人で勝手に色々動くという事ではありません。国や他の地域でお話をさせていただく際には、高橋先生に相談して、高橋先生から皆さんの許可を得た形でやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

佐藤座長

ありがとうございました。それでは、医師会の久保田委員からも、これまでの経緯も踏まえて一言お願いいたします。

久保田委員

医師会の久保田です。こういった素晴らしいツールが函館にあるということ誇りに思いますし、皆さんが苦勞して作られたというお話を聞いて、なおさらありがたみを感じています。

松田先生の方から、全国的なたたき台にさせていただけるとのことですので、随時フィードバックしていただければ、こちらでもブラッシュアップして、全国水準のものにしていきたいなと思います。以上です。

佐藤座長

ありがとうございました。かなり皆さんから前向きなコメントを頂戴できました。ただいまのご意見を総括させていただきますと、今後このサマリーの全国展開を進めていくにあたって、松田先生にご協力させていただくということで皆さんのご意見はまとまっているのかと感じておりますが、いかがでしょうか。（異議なし）

今後取り組みを進めていくということで、皆様からの意思確認ができました。それでは、協議事項（2）はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開についての議事は終了とさせていただきます。

以上で本日用意した議事は全て終了いたしました。最後に、全体を通して何かご発言等はありませんか。保坂委員申し上げます。

保坂委員

私事ですが、6月7日に日本看護協会の総会がありまして、その翌日に介護・福祉関係施設の在宅等領域の「看護師交流集会」という場で、「ICT等活用による業務改革の実際」というテーマで講演してくれないかという依頼が来ています。そこで、まさにこのICTとサマリーのことを15分間話してくる予定ですが、皆さんに承諾していただけるでしょうか。

佐藤座長

皆さんから拍手をいただきましたが、承諾していただけるとのことによろしいですか。（異議なし）

ありがとうございます。その他、ご発言はございますでしょうか。（なし）

それでは最後に、事務局の方からは何かございますか。

小棚木地域包括ケア推進課長

はい。次回の協議会でございますが、センターの取り組みの進捗状況を確認しつつ、改めて日程等を各委員にお伺いして、11月頃に開催させていただこうと考えておりますので、ご了承願います。

佐藤座長

それでは、以上をもちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の令和4年度第2回会議を終了いたします。皆様お疲れさまでした。